

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470700204		
法人名	社会福祉法人 宮城福社会		
事業所名	名取市グループホーム こもれびの家	ユニット名	こもれび
所在地	宮城県名取市手倉田字山212		
自己評価作成日	平成29年10月10日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成29年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の暮らしが楽しく安心なものになるよう、柔軟な対応に努めている。ご利用者様ひとり一人を職員が状態を把握するよう努めており、状況にあった支援や関わりを行っている。食事についてはメニュー作りから取り組んでおり、旬の食材や行事に合わせたものを提供する事で、大変好評をいただいている。また殆どの物を手作りしているため、各職員で味に個性があり、同じメニューでも違う味を楽しむことが出来るという楽しみがある。外注食にはない家庭の食事の温かさというものを提供していることは自信をもってアピールしたい。ほとんど残食がなく、ご利用者様の健康維持にも役立っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

名取市の南西、自然に恵まれた十三塚公園の近く、重要文化財中沢家住宅に隣接してホームがある。同地には宮城福社会の複数の介護事業所が存在し、防災避難訓練、ボランティアの受け入れ等連携している。運営推進会議には市や地域包括センター職員が毎回参加し、相互に意見交換をしている。地域との交流を大事にしており、市の各種行事に参加し、ホームの行事にも招待している。近くの共同農園から各種野菜の収穫の声が掛かり、食卓にあげている。入居者は、職員に見守られ日当たりが良い明るく暖かい食堂で、テレビを見たりおしゃべりをし、居間でゴロンと寝転がり、ゆったり一緒に楽しく過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームこもれびの家)「ユニット名 こもれび 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目標を見える所に掲示し、共有の理念のもと目標や理念実施に向けた取り組みを行っている。	理念は継続している。毎年、職員異動が落ち着く6月頃、ユニット目標を決めている。今年度は「幸せ」を具現するため、各ユニット共「笑顔」を目標に入れ、入居者が毎日笑顔で過ごせるケアを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お茶会やお話し会、夏祭りなどの催し物には地域住民を招き、交流を図っている。	法人名取地区合同の夏祭り、敬老会等に参加し、保育園児と芋掘りや七夕会等の交流をしている。紙芝居、アコーディオン演奏、合唱団の慰問もある。隣の畑主からは、季節の野菜を収穫する誘いもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、認知症についての説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実績や取組等の報告を行っている。またご家族様からの意見をいただき、可能なものはすぐに反映している。難しいものは事情を説明し前向きに取り組むことを伝え、ご理解をいただいている。	行政と地域包括支援センター職員が毎回参加し、行事に合わせ年6回開催している。職員が分からないとの要望で、ホワイトボードを活用し、「本日の勤務者」「今月の行事」を示し好評を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故が発生した際には、速やかに市へ報告を行っている。行事や運営推進会議への参加を依頼し、現状の報告を行っている。	制度に関する事項等を相談している。行政が主催するリスクマネジメント、介護サービスの質の向上等の研修に参加し、レポート報告で全職員が共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解向上のため、勉強会を実施し基本的には身体拘束を禁止している。医師の指示のもと、やむを得ず行う際には、様式に従い記録を行うこととしている。	年間計画により、勉強会を実施している。安全のため、夜間のみ玄関の施錠をし、各ユニットは呼び鈴、人感チャイム等により、人の出入りに気を付けている。不審者への対応として、戸締り、窓の目隠し、自動通報装置の活用等を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の実施により、意識の向上を図っている。身体に何らかの傷など見られた際には、都度記録へ残している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を利用する予定のご利用者様があり、制度について理解を深められるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や説明を十分に行い、理解していただけるよう取り組んでいる。不安や疑問点があれば都度対応し、納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様やご家族様から意見をいただけるよう、関係づくりを大切にしている。また意見箱を設置し意見の収集に努めている。いただいた意見は運営に反映されるよう対応を行っている。	意見箱を設置しているが、来訪時や介護計画見直し時等に直接家族から意見を聞いているので利用はない。「外出させてもらいたい」「編み物が出来て喜んで」「笑顔が戻った」等感謝の声が聞かれる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談の場を設け、職員からの意見聴取を行っている。また会議の場において提案や改善点を随時受け付けており、仕事がしやすいよう改善に向けて取り組んでいる。	職員意見で居間にエアコンを設置し、古いシャワーチェアを交換した。他施設の見学実習を行って、ケア技術の向上につなげている。職員に食費を支援し、入居者と同じ食事をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の能力を見極めそれに応じた役割を与えることで、やりがいへと結びつけている。また職員の状況を加味したうえでのシフト作成をしており、どの職員も働きやすい職場作りに力をいれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設見学や資格取得にむけた研修参加を実施し、スキル向上の取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人研修に平等に参加できるよう配慮し、法人職員との交流を深めている。施設見学の機会を設け、情報交換も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の実態調査を行うことで状態を把握し、支援内容の暫定ケアプランを作成。信頼関係構築のため、個別で関わる時間を多く設けている。また20分毎の行動記録を行っており、個人の把握に力を入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に不安なことや要望などを聞き、それらに対してどのように取り組んでいくか、どのようなサービスを利用できるか説明し、家族様に安心していただけるよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要性のある支援をご本人様やご家族様と話し、それに適したサービスを検討し提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様へ家事の一部を手伝っていただくなど役割を持ち、生活を共にしているという意識をもっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と連絡をとり、意向や思いを尊重した支援を行っている。また行事ごとに参加依頼を行い、共に過ごせる大切な時間が作れるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用していた病院やお店など、可能な限りご利用者様の意向を尊重し、関係が途切れず継続できるよう対応している。	馴染みの美容室でのおしゃれや行きつけのスーパーに買い物に出かけている。墓参りを日帰りでする人もいる。家族の協力が得られ、毎月外泊する方がいる。知人等の面会は家族に諮った上でやっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関わりが持てるよう個性や性格を把握し、環境づくりや雰囲気づくりを行い、関係性の構築を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じた相談や助言などの支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン作成に関してはご利用者様の意向を確認し、反映させている。また、意思疎通が難しいご利用者様に対しては、生活の様子から意向を読み取る、これまでの暮らしなどを家族様から伺うなどして対応を検討している。	入浴時等の1対1の時に思いや意向を聞いている。「昔ハワイに行った」「柿なますが食べたい」等の話が聞けた。忘年会では家族等の申し出を受けて化粧やマニキュアをして皆が綺麗になって楽しんだ。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	資料やご利用者様、ご家族様からの情報収集を行い、これまでの生活が継続できるよう取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のなかで心身状態の把握を行い、変化が見られた際にはスタッフ間での情報共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケアプラン検討会を実施。全スタッフの意見をもとにケース担当者と計画作成担当者がプランを作成している。作成後も状態に変化があれば支援内容を変更し、常に現状に適したプランを実施することが出来ている。	毎月ケアプラン検討会を実施している。短期計画は3か月毎、長期計画は6か月毎見直し、状況に変化があるときはその都度見直しをしている。食材を刻みトロミ食にしたり、乾燥時ローションを塗りを盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活面、医療面、プラン面についての記録を行い、スタッフ間で情報を共有している。支援やケアプランへの反映が必要か考慮し、必要に応じ取り入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様にかわり外来や薬の受け取りを行う、外来から往診への切り替えをするなど、家族様の状況に応じたサービスを提供出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによるお話し会やお茶会への参加を勧めたり、地域に出向き買物をしたり、生活を楽しく過ごせるような取り組みを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望されている病院を継続して利用できるよう対応している。病院へは他の病院診察状況があった場合は都度説明し、適切な医療サービスが受けられるよう取り組みを行っている。体調不良時は電話での報告をし、指示を頂いている。	入居前のかかりつけ医を継続し、通院は家族が対応し、説明が必要な時等は職員が支援している。毎月1回、往診対応の病院に往診して貰っている方もいる。訪問看護師も週1回来るので、家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護サービス利用時に報告や相談を実施している。その他、状態に変化があった際には24時間連絡をとれるシステムになっており、看護師との連携を図ることができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に病院へ足を運び、ご利用者が安心して治療を行えるよう声を掛けている。また状態確認や医師からの話を聞き、今後の治療方針や退院までの流れを確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前や入所時に事業所の方針を伝え、理解を頂いている。ご利用者様やご家族様の意向を確認しながら、事業所で行える事を伝え、今後の支援に繋げている。	看取りは実施しない方向である。契約時「重度化対応・終末期ケア対応指針」により方針を説明し同意を得ている。昨秋より、重度化や終末期対応は特養申込みや医療施設利用を勧めている。運営推進会議にも現状を報告し理解いただいている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応を確認しやすいよう、見える所にマニュアルを設置している。また、救命救急の講習会や応急処置の勉強会にて知識の習得に向けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中や夜間想定避難訓練を定期的に行っている。会議の場にてご家族様へ実施を伝え、避難訓練の様子を見ていただいている。施設合同の総合防災訓練では地域の方の協力のもと、行っている。	総合防災訓練、夜間想定訓練、図上訓練等年3回行っている。入居者は「頭巾」を被り、居室には、退室後の「済み」、移動方法は「車いす」の表示をしている。2階の歩行困難者を、「簡易担架」で担ぎ避難させた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症ケアや接遇の勉強会にて知識を習得し、意識の向上を図っている。また、ひとり一人のその場面に適した対応や声掛けを行うよう十分な配慮をしている。	入居者を敬う気持ちを持ち、呼び方は初対面の時に確認し、苗字か同じなら名前に「さん」を付けて呼んでいる。声がけは、後ろから突然呼ばない。失敗した時は「ちょっとよろしいですか」とさりげなく誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気持ちを表に出せるよう雰囲気づくりを大切にしている。ご利用者様が自己決定できるよう選択肢をもうけたり、声掛けの仕方にも注意を払っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の気持ちや体調、ペースを配慮し、気持ち良く生活できるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類をご利用者様自身に選んでいただいている。また化粧をする機会を設け、おしゃれを楽しんでいただけるよう配慮を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや盛付け、食器拭きなどスタッフとご利用者様が一緒になって調理に参加している。食事と一緒に頂き、楽しい時間になるよう声掛けや音楽などに配慮している。	献立係が1ヵ月分の献立を作成し、管理栄養士にも相談している。誕生日は、刺身、てんぷら、赤飯、ハンバーグ等の希望が多い。外食では、パンと珈琲、ラーメン、はらこ飯等を楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に量を調整して提供。必要に応じて声掛けや援助により摂取を促している。また食事形態も状態に適した形態にて提供し、苦手な物は代替りの物を準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア実施の声掛けを行い、必要な方には介助にて清潔を保持している。また治療が必要な際には往診を利用し、治療に取り組んでいる。口腔ケアの勉強会を実施し知識を得る事で混淆にも繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗が減るようWC誘導の機会を多く設けている。また定時での誘導の他、訴え時や様子の変化から排泄の雰囲気を感じ取り、都度の対応を行っている。使用しているパッドも尿量に応じたものを提供し、パッドに頼り切らないよう配慮している。	各人の排泄パターンを把握し、声がけ、誘導によりトイレで排泄出来る様支援している。夜間はセンサーで誘導している方がいる。誘導で皮膚状態が良くなり、紙パンツから布パンツに改善した例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促す食材を取り入れた食事やおやつを提供。毎日の体操や歩行にて運動不足を解消し、水分補給を促す事で便秘解消へとつなげている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様の希望をなるべく聞き入れながら支援している。時間帯や日にちななど可能な限り希望にそよう対応している。	週2～3回の入浴である。夕食後、突然入浴する気になった方を支援した。柚子湯、菖蒲湯等を楽しみ、皮膚の弱い方には乾燥しない入浴剤を使用している。重度者には足湯、清拭、シャワー浴で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣に合わせた休息を取り入れながら、日中は活動を促し、夜間帯に安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のファイリング、一覧表の作成にて薬を把握している。服薬はそれぞれに適した方法を用いて安全・確実に服用している。状態について記録を行い、必要に応じて医師へ報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	装飾づくりや梅酒づくりなど、楽しみながら参加できる取り組みを行っている。外出の機会を設け、気分転換を図るよう計画を立てている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の希望に沿った対応が出来るよう努めている。行事を企画しての外出や外食を定期的実施。行事以外にも散歩やドライブなどを行っている。また、家族様が来苑された際には、外出や外食を行っている。	希望に応じて、随時ドライブに出かけている。名取市役所の桜、竹駒神社・金蛇水神社への初詣、ハナトピア岩沼の花見、秋保温泉の足湯等に出かけた。天気が良い日は園内周辺を散歩している。近傍の十三塚公園は花見コースである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の楽しみやお金の大切さを理解している。所持が難しい方は職員が預かり、希望する物や必要な物をご家族様相談のもと購入している。また、外出時には簡単な会計をお任せする事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば職員が仲介し、電話を使用する事もある。また、年賀状などの手紙のやり取りも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースや廊下などに時期に応じた装飾を行い、季節を味わっていただけるよう取り組みを行っている。音や光、適した温度や湿度に配慮し居心地のよい環境に努めている。	回廊形式の廊下は中庭が見え、明るく開放的である。食堂ではテレビを見、話をしたり、塗り絵、貼り絵、折り紙等の様々な作品を作っている。「あっちの部屋」の居間では話をし、ゴロンと寝転がり寛いでいる。ペランダには干し柿が吊るされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にカウチを設置し、気の合う方同士で会話ができるような環境づくりを行っている。また、食席も関係性を配慮した配置で使用していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にそれまで使用していた家具などを持ち込んでいただき、環境の変化を緩和している。また思い出の写真や誕生日カードを飾ることで、楽しさや懐かしさに触れて生活することができるよう配慮している。	8畳の部屋は広々としている。馴染んだ家具を持ち込み、家族の写真、絵画等が飾られている。遺影・位牌にお供えをし、水をあげ花を添えている方もいる。清掃は職員と定期的実施し清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレがわかりやすい所に位置し、それぞれの距離も短いため使いやすい空間設定となっている。快適で安全な生活のために、手すりや介助バー・センサー・PTなどの設置も行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470700204		
法人名	社会福祉法人 宮城福祉会		
事業所名	名取市グループホームこもれびの家	ユニット名	あやめ
所在地	宮城県名取市手倉田字山212		
自己評価作成日	平成29年10月10日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成29年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の気持ちを大切に、心安らかに・安心して過ごすことが出来る雰囲気づくりに努めています。季節の移り変わりが感じられるよう、利用者様と制作した装飾が壁に飾られています。また、ご家族様とのふれあいを多く持てるよう、ご利用者様・ご家族様・スタッフの連携を大事にしています。些細なことでもご家族様に報告を行い、ご利用者様の状態報告を行っています。ご家族様がいつでも気軽に来苑できるような雰囲気づくりに心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

名取市の南西、自然に恵まれた十三塚公園の近く、重要文化財中沢家住宅に隣接してホームがある。同地には宮城福祉会の複数の介護事業所が存在し、防災避難訓練、ボランティアの受け入れ等連携している。運営推進会議には市や地域包括センター職員が毎回参加し、相互に意見交換をしている。地域との交流を大事にしており、市の各種行事に参加し、ホームの行事にも招待している。近くの共同農園から各種野菜の収穫の声が掛かり、食卓にあげている。入居者は、職員に見守られ日当たりが良い明るく暖かい食堂で、テレビを見たりおしゃべりをし、居間でゴロンと寝転がり、ゆったり一緒に楽しく過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームこもれびの家)「ユニット名 あやめ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を理解し、ユニット目標を掲げてご家族様にも目に触れる場所に掲示している。常にスタッフの意識を高め、質の向上に努めている。	理念は継続している。毎年、職員異動が落ち着く6月頃、ユニット目標を決めている。今年度は「幸せ」を具現するため、各ユニット共「笑顔」を目標に入れ、入居者が毎日笑顔で過ごせるケアを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近く農家の方に野菜の収穫をさせて頂いたり地域とのつながり、ふれあひが多くある。食材は地域の業者に配達して頂いている。	法人名取地区合同の夏祭り、敬老会等に参加し、保育園児と芋掘りや七夕会等の交流をしている。紙芝居、アコーディオン演奏、合唱団の慰問もある。隣の畑主からは、季節の野菜を収穫する誘いもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、外部の方に活動やご利用者様の状態・様子をお伝えしている。定期的な通院・買い物等においても理解を頂くきっかけになっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた様々な意見をスタッフで周知しサービス向上に生かしている。	行政と地域包括支援センター職員が毎回参加し、行事に合わせ年6回開催している。職員が分からないとの要望で、ホワイトボードを活用し、「本日の勤務者」「今月の行事」を示し好評を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、現状を理解して頂いている。他、年間行事の忘年会等に参加して頂き日頃の様子やスタッフのケアを見て頂いている。	制度に関する事項等を相談している。行政が主催するリスクマネジメント、介護サービスの質の向上等の研修に参加し、レポート報告で全職員が共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	屋間は玄関を施錠せずに見守り重視している。身体拘束はドクター指示があった場合、身体拘束委員会を発足し行っているが、廃止に向けての取り組みを実施している。	年間計画により、勉強会を実施している。安全のため、夜間のみ玄関の施錠をし、各ユニットは呼び鈴、人感チャイム等により、人の出入りに気を付けている。不審者への対応として、戸締り、窓の目隠し、自動通報装置の活用等を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	小さな傷にも注意を払い記録に残し再発防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等、情報の報告を受け、勉強会を通じて活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学時・入所時十分な説明を行い理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様来苑時面談を行い、意見や要望を伺っており、その都度対応している。コミュニケーションを大切に面談時意見を言いやすい関係づくりに努めている。	意見箱を設置しているが、来訪時や介護計画見直し時等に直接家族から意見を聞いているので利用はない。「外出させてもらいたい」「編み物が出来て喜んで」「笑顔が戻った」等感謝の声が聞かれる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われるスタッフ会や勉強会・ケアプラン検討会等で意見を出し合い、現場で困っている事や解決されていない問題についても把握し対応している。	職員意見で居間にエアコンを設置し、古いシャワーチェアを交換した。他施設の見学実習を行って、ケア技術の向上につなげている。職員に食費を支援し、入居者と同じ食事をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常にスタッフの状況の把握に努め、働きやすい環境づくりを心掛け、目指している。また、スタッフの良い所を評価するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月勉強会を開き職員一人ひとりのケアの向上に努めている。新人スタッフが経験のあるスタッフからアドバイスを受けやすい環境づくりを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設研修や、見学・ボランティアの受け入れを行い、情報交換・意見交換をし、それを生かし実践に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご家族様・ご本人様の話をよく聞いて、今現在困っていることに耳を傾けて、環境の変化による不安を取り除くコミュニケーションに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に話を伺い、不安なこと・要望などを聞いている。また、入所後も面会時や面談時に話を聞いたり、連絡を密にとり安心できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査の段階で必要としている支援を見極め、入所後行動を細かくチェック表に記録し、その後の様子を見ながら支援の見直しなどを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様が出来る事を促し、ご自分で行って頂き、出来ないところを手助けしている。また、ご利用者様に寄り添い人生の先輩から学ぶ姿勢で共に生活し喜怒哀楽を分かち合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と外出や外泊したり、病院などの受診をして頂いたり良い関係づくりが出来ている。また、行事などにも出来るだけ参加して頂き、一緒に過ごす時間を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・親戚・友人等の面会などは気軽に足を運んで頂ける雰囲気作りをし、ご本人様が楽しんで過ごせるように、場所の提供など環境づくりに心掛けている。	馴染みの美容室でのおしゃれや行きつけのスーパーに買い物に出かけている。墓参りを日帰りでする人もいる。家族の協力が得られ、毎月外泊する方がいる。知人等の面会は家族に諮った上でやっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の相性を考慮し、見守りを行いながら一緒に活動できる共同作業やレクリエーション、昔の話など関わりやすい環境づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談などで対応させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の生活など事前情報をより多く聞かせて頂き、意向に合わせて支援出来るようにスタッフ間で共有し、検討しながら実践している。	入浴時等の1対1の時に思いや意向を聞いている。「昔ハワイに行った」「柿なますが食べたい」等の話が聞けた。忘年会では家族等の申し出を受けて化粧やマニキュアをして皆が綺麗になって楽しんだ。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様より面会・面談時にお話を伺い、生活歴などを把握し、ご本人様とのコミュニケーションを図るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子・状態を記録してスタッフ間で現状を常に把握し、安心して過ごして頂けるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様にサービスに対する意向を確認して現状に合わせてプランを作成している。日々スタッフで話し合ったり、月に一回ケアプラン検討会を行いより話を密にしている。	毎月ケアプラン検討会を実施している。短期計画は3ヵ月毎、長期計画は6ヵ月毎見直し、状況に変化があるときはその都度見直しをしている。食材を刻みトロミ食にしたり、乾燥時ローションを塗りを盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や状態の変化等個別に記録している。また、連絡ノートを使用し情報を共有し話し合いを行い、都度見直しをおこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の体調に合わせてご家族様やご利用者様の要望に応じて、柔軟な支援が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節ごとにドライブを兼ねて外出したり、近くの商店に買い物、ベーカリーカフェでお茶を楽しんで頂いている。 隣の農家の方との交流もあ、り野菜の収穫を楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通い慣れた医療機関を継続して頂いていますが、ご本人様状態に合わせてご家族様と相談の上往診に切り替える等対応している。主治医と連携をとり、適切な医療が受けられている。	入居前のかかりつけ医を継続し、通院は家族が対応し、説明が必要な時等は職員が支援している。毎月1回、往診対応の病院に往診して貰っている方もいる。訪問看護師も週1回来るので、家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に定期訪問があり、その際にご利用者様の状態を報告し診て頂いている。また、状態に変化があった際は連絡を密にとり相談を行い、指示や訪問をして頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中直接病院に行き、病院関係者と情報交換を行ったり、ご家族様と連絡を取っている。また、病院の相談員さんを通じて関係づくりを行い、退院後安定した生活が送れるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設側で出来る事をご利用者様・ご家族様に十分に話し合いを行い説明している。また、主治医の指示・意見や、訪看との連携を図り、利用者様の今後の生活について考えている。	看取りは実施しない方向である。契約時「重度化対応・終末期ケア対応指針」により方針を説明し同意を得ている。昨秋より、重度化や終末期対応は特養申込みや医療施設利用を勧めている。運営推進会議にも現状を報告し理解いただいている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習会を受けたり、急変や事故に備えてマニュアルをもとに勉強し備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中や夜間を想定し定期的に避難訓練を行い、避難方法・避難場所・避難器具の使用方法を確認し職員に周知している。法人施設の地区内の総合防災訓練には地域の方々の協力を得ている。	総合防災訓練、夜間想定訓練、図上訓練等年3回行っている。入居者は「頭巾」を被り、居室には、退室後の「済み」、移動方法は「車いす」の表示をしている。2階の歩行困難者を、「簡易担架」で担ぎ避難させた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様を敬い「認知症という病気を抱えた人」を理解するという視点を大切に接している。認知症の勉強会のほか、接遇の勉強は繰り返し実施し、周知徹底している。	入居者を敬う気持ちを持ち、呼び方は初対面の時に確認し、苗字が同じなら名前に「さん」を付けて呼んでいる。声がけは、後ろから突然呼ばない。失敗した時は「ちょっとよろしいですか」とさりげなく誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の状態や気持ちに耳を傾け、意思を尊重しわかりやすい言葉で、自己決定が出来る声がけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活リズムの声がけは行うが、強制的には行わず、ご利用者様の意志を尊重しご利用者様のペースに合わせ、気持ちに寄り添う支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の好みを把握して、外出時等は一緒に服を選んだり、その人らしいさが失わないよう衣類の選択・整髪のお手伝いを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様に出来る事をして頂き食事作り・片付けを行っている。季節の食材や希望を取り入れ食への関心を引き出せるよう努めている。 毎食スタッフと共に食事をし、コミュニケーションをとりゆっくりと美味しく頂いている。	献立係が1ヵ月分の献立を作成し、管理栄養士にも相談している。誕生日は、刺身、てんぷら、赤飯、ハンバーグ等の希望が多い。外食では、パンと珈琲、ラーメン、はらこ飯等を楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・塩分量・食事形態等のご利用者様毎に対応している。 体調により食事量・水分量をチェック表に記入し管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各ご利用者様に依って口腔ケアの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各御利用者様の排泄パターンを把握し、声かけ・誘導を行っている。 また、排泄の訴えやしぐさ・視線を逃さないよう心掛け見守りを行っている。	各人の排泄パターンを把握し、声かけ、誘導によりトイレで排泄出来る様支援している。 夜間はセンサーで誘導している方がいる。誘導で皮膚状態が良くなり、紙パンツから布パンツに改善した例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつにバナナ・ヨーグルトを毎日交互に提供し、十分な水分摂取を心掛けている。 また、日課に家内歩行・TV体操・リハビリ体操を取り入れ、状態に応じて主治医に相談し改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者様のバイタル測定を行い身体状況に合わせて入浴を行っている。強制せず満足できる支援をしている。 シャワー浴・清拭等状況により対応し、清潔の保持に努めている。	週2～3回の入浴である。夕食後、突然入浴する気になった方を支援した。柚子湯、菖蒲湯等を楽しみ、皮膚の弱い方には乾燥しない入浴剤を使用している。重度者には足湯、清拭、シャワー浴で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の室温・明るさ・心地よい寝具等環境づくりや安心できる声かけの支援を行っている。ゆっくり安眠出来るよう見守り重視を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を理解し、処方内容の変更があった場合はスタッフ間で情報を把握している。症状の変化に気をつけ観察している。 誤薬のないように工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の得意な事を把握し役割を持って頂いている。力を発揮することで楽しく自信を持って生活出来ている。時には外出し散歩・カフェでお茶を楽しまれたり気分転換が出来るよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様の体調に合わせて計画を立て外出・ドライブ・散歩など行っている。 また、ご家族様の都合の良い日に温泉などに外泊されている。	希望に応じて、随時ドライブに出かけている。名取市役所の桜、竹駒神社・金蛇水神社への初詣、ハナトピア岩沼の花見、秋保温泉の足湯等に出かけた。天気が良い日は園内周辺を散歩している。近傍の十三塚公園は花見コースである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の了承を得てスタッフが管理し、買物に出掛けた際はご利用者様が必要な物を購入している。お預かりしているお小遣いより支払いし、小遣い帳へ記載している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様より希望があった時は対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間・廊下には季節を感じて頂く装飾をご利用者様と一緒に作り飾り付けている。中庭には季節の花を楽しんで頂くよう季節の花を植え替えたり手入れを行っている。	回廊形式の廊下は中庭が見え、明るく開放的である。食堂ではテレビを見、話をしたり、塗り絵、貼り絵、折り紙等の様々な作品を作っている。「あっちの部屋」の居間では話をし、ゴロンと寝転がり寛いでいる。ペランダには干し柿が吊るされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間・食堂などでTVを観たり、新聞・本を読んだり思い思いに過ごされている。一緒に懐メロを唄ったり談笑をし自分のペースで過ごせるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に協力を頂き、入所時には使い慣れた家具・日用品などを持参していただき、家具の配置にも気を配っている。個人により絵や家族の写真等も飾り居心地の工夫をしている。	8畳の部屋は広々としている。馴染んだ家具を持ち込み、家族の写真、絵画等が飾られている。遺影・位牌にお供えをし、水をあげ花を添えている方もいる。清掃は職員と定期的実施し清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差があつたり、狭い空間もありますか、危険と思われる個所はスタッフで話し合い、タイル調のマットを敷いたり、見た目でもわかりやすい床にするなど転倒防止に努めている。安全で安心した環境づくりを工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470700204		
法人名	社会福祉法人 宮城福社会		
事業所名	名取市グループホームこもれびの家	ユニット名	すみれ
所在地	宮城県名取市手倉田字山212		
自己評価作成日	平成29年10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

すみれユニットは、身体的に自立の方が多く、散歩やドライブ、買い物など外出の機会が多く、毎月1回のお出掛けの行事は、ご利用者様の楽しみのひとつとなっております。また、余暇活動や役割活動では、ご利用者様が出来る事をスタッフと一緒に、毎日が笑顔で楽しく過ごすことができるようにスタッフ一同情報を共有し、統一した支援に努めています。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成29年11月15日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

名取市の南西、自然に恵まれた十三塚公園の近く、重要文化財中沢家住宅に隣接してホームがある。同地には宮城福社会の複数の介護事業所が存在し、防災避難訓練、ボランティアの受け入れ等連携している。運営推進会議には市や地域包括センター職員が毎回参加し、相互に意見交換をしている。地域との交流を大事にしており、市の各種行事に参加し、ホームの行事にも招待している。近くの共同農園から各種野菜の収穫の音が掛かり、食卓にあげている。入居者は、職員に見守られ日当たりが良い明るく暖かい食堂で、テレビを見たりおしゃべりをし、居間でゴロンと寝転がり、ゆったり一緒に楽しく過ごしている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **グループホームこもれびの家**)「ユニット名 **すみれ**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度より法人全体の理念も新たになり、それを踏まえて各ユニットでも目標を掲げ実践している	理念は継続している。毎年、職員異動が落ち着く6月頃、ユニット目標を決めている。今年度は「幸せ」を具現するため、各ユニット共「笑顔」を目標に入れ、入居者が毎日笑顔で過ごせるケアを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接している畑の方と交流を持ち、野菜に収穫をさせて頂いている。また、地域のボランティアの方によるお茶会やお話会に参加している。	法人名取地区合同の夏祭り、敬老会等に参加し、保育園児と芋掘りや七夕会等の交流をしている。紙芝居、アコーディオン演奏、合唱団の慰問もある。隣の畑主からは、季節の野菜を収穫する誘いもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の研修会の参加や勉強会を実施。認知症への理解を深め、学んだ事を運営推進会議や家族面談の際に伝達している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回の運営推進会議を開催しており、取り組み等の報告と意見交換を行い、サービス向上に向けて取り組んでいる	行政と地域包括支援センター職員が毎回参加し、行事に合わせ年6回開催している。職員が分からないとの要望で、ホワイトボードを活用し、「本日の勤務者」「今月の行事」を示し好評を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、市の介護長寿課の方にも参加して頂いている。取り組みを伝え、事故等が起きた際にも報告し、助言を頂いている。	制度に関する事項等を相談している。行政が主催するリスクマネジメント、介護サービスの質の向上等の研修に参加し、レポート報告で全職員が共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い、理解に努めている。また、不必要な身体拘束を行わないケアを実施している。	年間計画により、勉強会を実施している。安全のため、夜間のみ玄関の施錠をし、各ユニットは呼び鈴、人感チャイム等により、人の出入りに気を付けている。不審者への対応として、戸締り、窓の目隠し、自動通報装置の活用等を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い理解しケアに当たっている。また、傷や内出血も見落とさず記録に残し情報を共有し、話し合いの場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用されている方もいるので、回覧などで理解するよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には、契約内容を十分説明し、不安や質問には、わかりやすく説明し理解をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様は日々の生活の中から、ご家族様は面会や面談時に要望を確認し、運営に反映させている。また、玄関に意見箱を設置している。年6回の運営推進会議の報告をご家族様全員に送付している。	意見箱を設置しているが、来訪時や介護計画見直し時等に直接家族から意見を聞いているので利用はない。「外出させてもらいありがたい」「編み物が出来て喜んで」「笑顔が戻った」等感謝の声が聞かれる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議の場での意見聴取に加え、職員一人一人と面談を行い意見を反映させ、ケアの向上や就業環境の改善に取り組んでいる。	職員意見で居間にエアコンを設置し、古いシャワーチェアを交換した。他施設の見学実習を行って、ケア技術の向上につなげている。職員に食費を支援し、入居者と同じ食事をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員面談での意見等も取り入れ環境の整備を図っている。また、職員が、働きやすい職場になるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験やレベルに合わせ内部・外部の研修を受けている。研修内容の回覧や情報を他スタッフに伝え、職員の意欲にも繋がっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへの見学や研修等に参加し、同業者との意見交換や情報収集を支援に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	3日間の行動記録をつけ、それをもとに安心した環境づくりやご本人様との関係づくりができるようにケアプランに盛り込み取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査時や入所時、入所後に要望や不安などを伺い、安心できるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に実態調査を行い必要としている支援を見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を見極め生活の主体者となれるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細目に情報を伝える等、ご家族様との連携を密に行い、一緒に考えて行く関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容院や病院などの馴染みのある場所、家族や友人等の関係が途切れず生活が継続できるよう支援に努めている。	馴染みの美容室でのおしゃれや行きつけのスーパーに買い物に出かけている。墓参りを日帰りでする人もいる。家族の協力が得られ、毎月外泊する方がいる。知人等の面会は家族に諮った上でやっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の関係性を把握し、安心して過ごせるような座席等の環境も考慮し、孤立しないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の意向やご家族様の意向を確認し、より良い生活の支援ができるようケアプランに反映させている。	入浴時等の1対1の時に思いや意向を聞いている。「昔ハワイに行った」「柿なますが食べたい」等の話が聞けた。忘年会では家族等の申し出を受けて化粧やマニキュアをして皆が綺麗になって楽しんだ。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査時やそれ以外でも、気づいた事があれば都度確認し、職員全体での周知を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録を行い、職員間で現状についての情報の共有化を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様にも意向を確認し、3か月に1回モニタリングを行い、職員全員で介護計画の作成に関わっている。	毎月ケアプラン検討会を実施している。短期計画は3か月毎、長期計画は6か月毎見直し、状況に変化があるときはその都度見直しをしている。食材を刻みトロミ食にしたり、乾燥時ローションを塗りを盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録に加え、日常の様子や体調面などを記録し、情報の共有と介護計画の見直し時に役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況や要望を把握し、適したサービス提供ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様やご家族様の状況や要望を把握し、適したサービス提供ができるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医に受診できるようにご家族様の了解を得ている。また、必要に応じて往診に切り替え、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前のかかりつけ医を継続し、通院は家族が対応し、説明が必要な時等は職員が支援している。毎月1回、往診対応の病院に往診して貰っている方もいる。訪問看護師も週1回来るので、家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携をとっており、週1回の定期訪問に加え、状態変化時には、連絡し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、介護サマリーを作成し情報を提供している。入院中にも病院へ足を運んだり、病院関係者に連絡を取り、退院後の生活に役立てている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期については、入所段階で事業所の方向性を説明し理解を頂いている。都度、必要時に話し合い、事業所で出来る事の説明も加えて行っている。	看取りは実施しない方向である。契約時「重度化対応・終末期ケア対応指針」により方針を説明し同意を得ている。昨秋より、重度化や終末期対応は特養申込みや医療施設利用を勧めている。運営推進会議にも現状を報告し理解いただいている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会やマニュアルの確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、避難方法や器具の使い方等を身につけている。総合防災訓練では地域の方の協力を頂いている。	総合防災訓練、夜間想定訓練、図上訓練等年3回行っている。入居者は「頭巾」を被り、居室には、退室後の「済み」、移動方法は「車いす」の表示をしている。2階の歩行困難者を、「簡易担架」で担ぎ避難させた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇についての勉強会に力を入れており、目上の人を尊う対応や声掛けに配慮し支援している。	入居者を敬う気持ちを持ち、呼び方は初対面の時に確認し、苗字が同じなら名前に「さん」を付けて呼んでいる。声がけは、後ろから突然呼ばない。失敗した時は「ちょっとよろしいですか」とさりげなく誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を用意し自己決定出来る様支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活になるようにある程度の1日の流れはあるが、意向を確認しながら支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活の中で衣類や化粧などに気を配っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物や好みの物を献立に入れるようにしている。調理や片付けも一緒に行い、楽しく食事出来るよう支援している	献立係が1ヵ月分の献立を作成し、管理栄養士にも相談している。誕生日は、刺身、てんぷら、赤飯、ハンバーグ等の希望が多い。外食では、パンと珈琲、ラーメン、はらこ飯等を楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事形態の工夫や提供するタイミングを工夫し、栄養や水分の確保に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行い介助が必要な方にはスタッフが介助にて清潔保持を行っている。口腔ケアの勉強会を実施し、よりよいケアが出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し排泄パターンの把握に努め、トイレの声掛けや誘導を行っている。自尊心にも配慮し、失敗を減らせるよう失禁パンツやパットの使用もご本人様の意向を聞きながら使用している	各人の排泄パターンを把握し、声かけ、誘導によりトイレで排泄出来る様支援している。夜間はセンサーで誘導している方がいる。誘導で皮膚状態が良くなり、紙パンツから布パンツに改善した例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や腹部マッサージ、運動の支援を行なっている。食物繊維の多い食事や乳製品を提供し、その方にあった便秘予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低3日に1回は声掛けをさせて頂き、その日の体調や気分に合わせて対応している。また、時間帯も午前や午後・夕方・夜と、一人一人の希望やペースに合わせている。	週2～3回の入浴である。夕食後、突然入浴する気になった方を支援した。柚子湯、菖蒲湯等を楽しみ、皮膚の弱い方には乾燥しない入浴剤を使用している。重度者には足湯、清拭、シャワー浴で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力に応じて日中の臥床時間を設けたり、夜間安眠出来るように日中の活動を支援しており、また、安眠できる環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状況を一覧表にして確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせた掃除などの役割活動や塗り絵などの余暇活動を行っている。また、楽しみごととして毎月、外出等の行事を計画している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の希望には出来る限り対応し、外出の機会を設けている。また、ご家族様の協力を頂き、ご家族様と外出もされている。	希望に応じて、随時ドライブに出かけている。名取市役所の桜、竹駒神社・金蛇水神社への初詣、ハナトピア岩沼の花見、秋保温泉の足湯等に出かけた。天気が良い日は園内周辺を散歩している。近傍の十三塚公園は花見コースである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元にお金がないと不安な方には所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れたり、貼り絵やカレンダーを制作し飾っている。また、湿度や温度に配慮し快適に過ごせるように工夫している。	回廊形式の廊下は中庭が見え、明るく開放的である。食堂ではテレビを見、話をしたり、塗り絵、貼り絵、折り紙等の様々な作品を作っている。「あっちの部屋」の居間では話をし、ゴロンと寝転がり寛いでいる。ペランダには干し柿が吊るされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外が眺められる廊下に椅子を置き、独りになれたり、数名で談話できるような環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みのある物を持参して頂いたり、ご本人様が作成した物を飾り居室が居心地のよいものとなるように努めている。	8畳の部屋は広々としている。馴染んだ家具を持ち込み、家族の写真、絵画等が飾られている。遺影・位牌にお供えをし、水をあげ花を添えている方もいる。清掃は職員と定期的実施し清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の家具などの配置に配慮したり、居室には表札、トイレには貼り紙などを表示しわかりやすく自立した生活が送れるように工夫している。		